

海外安全対策情報（2016年10月～12月）

1 殺人・強盗等凶悪犯罪及び一般犯罪の傾向

一般犯罪は、従前と比べて改善しているといわれていますが、長期にわたる内戦の影響による銃器類の氾濫、貧富の差の拡大、若者の失業率の増加、更に都市への人口流入により、依然としてプノンペン都内を中心に、住居への侵入強盗・窃盗事案、若者による路上でのトゥクトゥク（三輪タクシー）や徒歩で移動中の者を狙ったひったくり・強奪事件が頻発しています。

なお、内務省国家警察の統計による10月から12月の犯罪発生状況は以下のとおりです。

罪種	10月	11月	12月	合計
殺人	17	16	19	52
強盗	12	18	14	44
強姦	21	31	22	74
窃盗	101	98	102	301
詐欺等	12	14	5	31
傷害	81	50	45	176
わいせつ	5	2	4	11

2 テロ・爆弾事件発生状況

2008年のカンボジア・ベトナム友好記念碑における爆弾事件（負傷者なし）、2009年の国防省及びTV3（民放テレビ局）前における爆発物設置事件等、テロ関連の事件が過去に発生していますが、現在のところ、大規模テロにつながるような情勢の変化は認められません。

3 誘拐・脅迫事件発生状況

内務省国家警察によれば、2016年中の身代金目的の営利誘拐は4件、その他の目的の誘拐は6件発生していますが、日本人を対象としたものではありません。

4 日本企業の安全に関わる諸問題

2016年6月、バベット地区のSEZ内で、日系企業に対するデモが発生しましたが速やかに収束しました。現在のところ、日本企業の安全について特段の問題があるとは認識していません。

5 対日感情

現在のところ、我が国のカンボジアに対する和平プロセス以来の積極的且つ継続的な経済協力の実施等により、カンボジア国民の対日感情は概して良好であり、特段の反日感情は見当たりません。